

アーヴィングの道徳

定職就き「いまはこうなっている」に期待
仙台市市民協働推進部白川部長に聞く

ＰＳＣコミュニケーション・ワーク創出事業部の雇用関連事業が動き出した。同事業部は今後、仮設住宅の居場所づくりに加え、就業体験などを通じて被災者の雇用創出に積極的に取り組んでいく考え。仙台市が事業を通じて期待していることは、どんなことか。事業を協働で進める市民協働推進部の白川由利枝部長に話を聞いた。

一雇用に関する現状をどう見

一層用に開する現状をどう見ていますか？

「田舎山一ちゃんっての言葉を教えるゾノギナ、」
事を失っている人が多いからです。ここはまつさ
きに対応していかなければと思います。

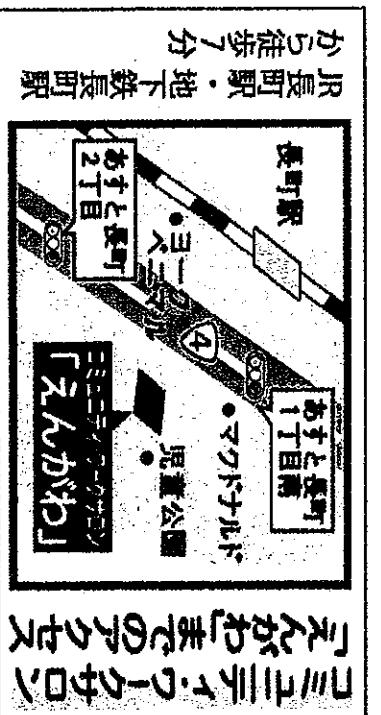
白川部長 被災の方々の生活の再建 復興を考えたとき、基盤になるものはどんなことを考えたときに、家の再建、復興もそうですが、すぐ重要なのが「仕事」です。
仕事は、家を建てたり、物を食べたりするための稼ぎの側面と、心と体の健康を保つための生業(なりわい)、生きがいを持つという両方の要素があります。
雇用を作ることについてはこれまで、市役所も

いろいろ取り組んできました。企業誘致ばかりでなく緊急雇用創出事業で多くの仕事をつくれています。

しかし、多くの人が多種多様な仕事を必要としている今のような状況には、役所の力だけでは対応しきれません。生きがいのための仕事がほしいへ年金だけではちよつと足りない、ステップアップしてきちんと就職したいけど心の傷があり就職でききなど、それぞれの状況に合わせて、仕事につなげていくことを、その分野を得意とする団体と手を組み、取り組んでいけたらと思っています。

—コミュニティ・ワーカーサロン「えんがわ」に期待するアドバイス?

白川部長 少しでもお金を稼げる状況を作るということは、生きがいという側面で大事なことです。そこが目指すものの最終ゴールというわけではありますが、「えんがわ」に通いながら、さまざまなお相談、体験をし、仕事が見つかり、「いまはこうなっている」と話しに来てくれる人が少しでも多くてくれれば、うれしいですね。



CWサロウ「えがわ」本格始動

「スルガ」は、被災者の仕事に関する支援を行う施設です。その名前には、人と人とのつながりが生まれ、「繋」が「輪」のようになって広がってほしいという願いが込められています。

副刊号 2012年1月

コミュニティ・ワーク創出事業部
住所／仙台市太白区あおと長町4丁目3-20
電話／080-4427-6567

仙台市
太白区

A high-contrast, black-and-white photograph capturing a moment of quiet reflection. The subject is a person with a dark complexion, wearing a dark baseball cap and a textured, possibly knitted, garment. Their hands are clasped together near their chin, and their gaze is directed downwards and to the right. The lighting is stark, with strong highlights on the right side of their face and hands, while the left side remains in deep shadow. The background is dark and indistinct, further emphasizing the subject's profile.

われさせて体を動かすリストミックク左二
どさまざまなイメージベントを開催した。
えんがわは、元らが職業体験を経通じ、自分の居場所を見つけて、もうう場として同時にもらうと同時に、適職を探つて、2011年10月に仙台市と、(一)社(「ハーモニカルサポートセンター」)(PSC)・コミュニケーション・タワー・PSCコム二にて開催された。

明の枝で一體約20難題を解き、太田区立手稲第一小学校の開校式に出席する。

まざまな事業を届けるほか、母子家庭で育て支援にも取り組んでいく方針。ハローワークなどで仕事を得る際にも被災者が、状況に応じて、収容されるよう今後、さまざまなプログラムを実施する。

右に真剣にて、左に丸を一つこゝに加え、表情を加え、午後を丸め、イギリスを丸めししたてを製作せやからを丸め

「左」
に表示するクリップを用いて、作業に取り組む参加者
の、竹串を使って、つ丁寧につつと笑顔のマークを
描く。これが、火薙が谷の「アーチ」の「ア」を作りも行わ
ないで、一回試食した。羊毛を溶かして、水には古酸
には、水に溶かして、羊毛を試食した。

なことよかしさをもつて、いざなうにせし氣み樂園の模様などは、やうやく定められたのである。

かつたです。すくなくなんなが、団結の要
かひ定期的にトライアル参
がりを広げてもらひ定期的にトライアル参
はと思つていています。者の方にどんじんを
なものから始まつたときも、すつぱん業
かもしません。のもち、いっしゅう中で、いっ
事として定着するも、いつかも思つてゐます。

昨年6月まで道路管理の仕事をしていました。震災の時、仙台市内にいたこともあり、次に働くたけに、今仕事をしたいと決心した。自分にとつてこれまでの業界とまつたく違いました。う第三の人生「がそ」にしてスタートです。今後「えんかわ」では被災者向けのはまやまな就労支援事業を進めていきたいと思っています。



卷之三

「いい年だった」の声聞きたい

のさけび声が響き渡る。男性は年が明けるまで、市内が見渡せる高台の鐘つき場で、何度も何度も、海に向かつて今も行方が分からぬ仲間を呼び続けていた。

「えんがわ」で聞いたイベント「にてまるクッキー＆フィギュア製作体験」で知り合った女性の誘いで昨年末、

岩手県陸前高田市のお寺に鐘突きに出かけた。女性の夫は同市内で代々続くお寺の住職。津波で自宅を失い、お堂の一部が流されたことから、一時は除夜の鐘の中止も検討したというが、「今年もぜひ」という地元住民の声が後押しし、開催にこぎつけたという。男性は、鐘突きが行われると知り、この日、お寺を訪れた地元の

消防団の班員だった。家族や仲間を亡くした人、家を失った人……。昨年は、津波や地震で、どれだけ多くの人の心と体が傷ついたことか。被災地で昨年、仕事をしていた身として、男性の姿に胸が痛んだ。

「おめでとう」の言葉を今年の正月は聞くことがなかつた。自分も結局、その言葉を発することはなかつた。昨年のことを考えれば、年が明けたとはいえ、めでたい気持ちになれないのは、当然かもしれない。

「復興頑念」。宮城県の村井嘉浩知事は、今年の抱負をこう記した。東日本大震災からの復興に頑張り、そして復興を願う気持ちをこの4文字に込めたのだという。多くの被災者が仕事を失い、雇用保険の失業給付を受けていた人の中には間もなく「満期」を迎える人がいる。生活を再建するために、自分に合った「適職」を見つけなければと思つている人もきっと少なくないだろう。

「えんがわ」では、そんな方々に足を運んでもらい、一人でも多くの人が生活の糧（かて）を得て、明日への希望を取り戻してもらえるよう、今後さまざまな支援事業を展開していくと考えている。

多くの人が今年の年のはじめ、「いい年だった」と思えよう。願いがかなら

仙台市子育(ふれあい)ラテ

「アリ、開口」アヘント情報(2月)
子育てを応援する施設です!好きなときに好きなだけ遊んでいけるオーバンな空間です。入場料等はありません。どんなところか、まずはお子さんと一緒に遊びにきてください。

○住所
仙台市青葉区中央2丁目10番24号
(仙台市ガス局ショールーム3階)

TEL 022-726-6181 / FAX 022-214-5071
◎開館時間 9：30～17：00(託児室は16:30まで)
○休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始

またはHPをご覧ください。

震災後、どこかある不安を抱えて福島県から仙台に避難してきたママたちのサロンです。ことものこと、これからのこと、仙台での生活のこと・・・。子どもと離れてゆっくりとした時間を過ごしましょう。

火)10:30～12:30 ■場所：①エル・パーク仙台 和室 ②
エル・パーク仙台 創作アトリエ *いずれも、仙台三越
定禅寺通り館5F) ■対象：福島県から避難してきた預

Piccolo Room (ピッコロルーム)
子ども一時預かり事業
幼児をもつ母 ■ 定員：10名 ■ 参加費：無料

専門の研修を受けたスタッフが最短で2時間から、お子さまをお預かりいたします。東日本大震災でひとり親となつた方などは、状況に応じて託児料の50~100%の補助を受けていただけます。

■利用時間：午前8時半～午後6時半（時間外は要相談） ■託児対象：未就学児（おおむね生後6か月～） ■託児料：1時間 700円 ■申し込み：利用日の3日前までに kodomo_katei_sien@yahoo.co.jp または FAX で 022-279-2883 に「託児登録希望」と書いて申し込みます。

類子の歌集

仙台市内の仮設住宅日、「えんがわ」で開かれた未就学児とその親ら10名などで暮らす被災した仙台市内を支援しようと「親子で楽しませてくれ」と「親子で楽しませてくれ」という言葉を乗せて、子育て世帯を支援しようとして、クリスマスパーティを開くことになりました。

ト後、定期的に貰い取りを実施している。中にはアヘンアヘン終了後10日間で20個以上製作した人もおり、参加者の一人は「余暇を使つて収入につながることができる」と語っていた。うれしいところである。

リトミック クリスマスパーティー

河を流した。NPO法人「チヤードライ」や「みやぎ」や「市内の民間賃貸住宅に避難している20代の男女は」「これまでは情報報がなく、被災後に初めて林区のリトリック講師土山真理子さん(指導)で、音楽に合わせて体を動かす「リズム遊び」久々に、走り回ることで、音楽を体験したほか、紙入形劇「ペーパーサー」とも楽しんだ。子どもたちで、音楽に集まっているベント話した。た。「久々に、走り回ることで、音楽に参加した。子どもがができてよかったです」と話した。

『えんがわ』・扇町1丁 ラヂオル体験アベマ